

カペティスの小さな家を支援してくださる皆様

去年はコロナ騒ぎで何もできなかったのですが、今年は若い職員が増えたこともあって、聖マルティンの生涯について皆が興味を持つようになり、3つのグループに分かれ小さな劇を披露しました。

そのあと「聖マルティンとはどんな人？」そして、私たちの家の生い立ちなどのクイズに競い合い、みんなが盛り上がりました。

もちろん商品付きなので面白い場面がいっぱい。

そのあと22年間の恵みの日々の感謝のミサにあずかりました。最後にみんなで昼食。

青年たちの案で今年初めて変わった料理を食べようと、外部に注文したので、料理のことを心配せずに皆が集中して、この楽しいひと時を過ごすことができました。とても良い思い出でした。

まだまだコロナの心配をしながらの行事ですが、家庭的な雰囲気の中でみんな頑張っています。



今年は2回バザーをしたり、野菜(アスパラガス)をサンタクルース(売店)に出荷したり、豚やモルモットを売りに市場に行ったり、少しでも家の収入があるように頑張りました。今度はクリスマスに向けパネトンというクリスマス用の特別の大型パンを売るよう計画しています。手始めに100個。有名なパネトンの会社の社長さんが特別の値段で売ってくれるというので早速来週買いに行きます。😊

みんなが1つの目標に向かって何かをしようと子供たちも元気になります。10日に私たちの畑のジャガイモとそら豆の収穫を子供たちとしました。それでもまだ半分は来週収穫です。早速職員や私たちの店に出して完売しました。(もちろん私たちの分は十分残してですよ。)今回初めてすごく立派な野菜が育ち神に感謝です。

いつも夢を追っているような毎日ですが、皆様方がその夢をかなえてくれているのですね。ありがとうございます。

良いクリスマス、そして新年を迎えるために夢を追い続けましょう。

野原 昭子

ご支援下さる皆様のおかげさまで、エルピス会便り57号をお届けいたします

昨年から、コロナコロナ！の毎日ですが、いづらか明るい兆しが見え始めたような…と、信じていた今日この頃です。

皆様には、「お元気ですか？」と言うことしか出来ない私たちですが、それぞれにお健やかに過ごしのこと願うばかりです。

ボリビアの「聖マルティンの家」もなんとか頑張っています。子どもたちも野原昭子さんもコロナは、もう大丈夫です。新しいお友達も入ってきました(現地報告より)。

暗い話の多かった年でしたが、明るい話も入ってきました。

去る11月2日、私(俵)は野原昭子さんの代理で京都へ参りました。

野原昭子さんに公益財団法人ソロプチミスト日本財団様より「千嘉代子賞」という、大きな賞を戴いて参りました。ソロプチミスト神戸の皆様がご推薦下さったそうです。

受賞理由は、
「より豊かな生活の実現、

および国際相互理解の促進に永年尽力された功績を称えて」ということでした。

しかしながら、今回の賞は、昭子さん本人が戴いたのではなく、野原さんのボリビアでの活動に賛同し、子ども達へ思いを馳せて、長い間、ご支援下さった多くの方達と、苦難にもめげず一生懸命頑張っている「聖マルティンの家」の子ども達・利用者の方達への「応援メッセージ」だと思い、心から感謝申し上げたいと思います。

さて、日本では晩秋から冬へと向かっていますが、ボリビアでは春から夏へと季節は移ります。コロナや風邪、インフルエンザと心配な冬になりそうですが、どうぞお元気でお過ごし下さい。

来年こそはコロナが治まっていることを願いながら…

2021年11月吉日 エルピス会 代表 俵 靖子



左:公益財団法人 ソロプチミスト 日本財団 理事長 千 容子 様
右:エルピス会 俵 靖子



右:ソロプチミスト神戸 会長
ハラ フロインドリーブ 上原 様

